



真宗大谷派 存明寺通信

No.187

2018年(仏歴2549年)11月2日発行

親鸞聖人の言葉
しんらんしょうにん



親鸞聖人

歎異抄
たんいしょう

第13章



存明寺HP、随時更新中 そんみょうじ 親鸞と出会うお寺 しんらん であ

<http://www.zonmyoji.jp>

住職のコラム

出会いを求める人々

存明寺住職 酒井義一

出会いを求める人々

保育士だった妻が、お寺を会場に「子育てサロン」という動きをはじめて四年が過ぎました。「いちごのへや」と名付けられたそのサロンは毎月一回開催され、子育て中の母親や乳幼児たちが集まってきます。

参加者は毎回十組以上。予想よりも多くの方々が参加されます。その背景には、核家族化が進み、ひとりで子育てをしている母親が増えているということ。それらの人々が子育て中の仲間や先輩たちとの出会いを求めているということがあるようです。

若い母親たちとの会話の中で、時おり気になることもあります。

「私、この子がかわいいと思えない時があるんです」絞り出すようにそう語った方がおられました。それはまるで、彼女の心の底からの叫び声のような気がしました。

妻はその母親に寄り添い、じつくりと話を聞きます。そして、自分の体験を相手に届けていきます。

どこにも届かない声

警察は、昨年、虐待を受けていると児童相談所に通告した人数が、三万七〇二〇人であったと発表しました。大人が子どもに虐待をしてしまうことが、今や大きな社会問題となっています。

自分を表現する言葉を持たない幼い子どもたちが、暴力や暴言などによって抑え込まれ、心身を傷つけられているのです。そして、時にいのちを奪われていくのです。そこには切実な叫び声があったはず。声にさえならないうめき声が響いていたはず。

しかし、叫び声やうめき声はどこにも届くことはなく、無残にも踏みじられてしまったのです。

弱く狭く悲しい存在

人間は、自分の思い通りにならない相手と出会うと、時に怒りを抱き、相手がまるで鬼のように見えてくることがあります。

私も三人の子どもを育てる中で、思い通りにならない子どもたちに対して、時に怒りを抱きながら接してしまつたことがあります。

相手が自分を困らせる鬼のように見えてくることもありました。

虐待という行為がわかる、などと言うつもりはありません。虐待を正当化することは、絶対にしてはならないことです。

しかし、人間は、思い通りにならない現実と直面した時、誰もが自らの内から鬼のような心が沸き起こって来るのではないのでしょうか。私にも思い当たることがあります。私も本質的に同じ問題を抱えているのだと思います。

自分の子を虐待によって死に追いやってしまった人がいます。その人は力があるから暴力をふるつたわけではありません。

その人は、暴力に頼らざるを得ないほど、相手と対話をする力を

持たず、弱くて、狭くて、悲しむべき存在だったので。

人間を深く悲しむ親鸞

わがこころのよくて
ころさぬにはあらず

(歎異抄 第13章)

親鸞聖人の言葉です。親鸞聖人は、自分の心がよいから人を殺さないのではなく、たまたま縁が熟していないから人を殺していないだけだ、と言われました。

「人を殺してはいけない」と言つたのではなく、私も縁さえ熟せば百人や千人も人を殺してしまえる人間である、と告白されたのです。

自分中心に一切のことを考え、相手を平気で傷つけ、しかもそのことに痛みすら感じないもの、人間。

親鸞聖人は、光に照らされながら、そのような人間存在を深く悲しまれました。そして「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」(歎異抄 第13章)

という身の事実を直視されたので

す。光に出会うということ。そして、光に照らされながら自らの闇を知るということ。そのことを大切にしたいものです。

※この文章は真宗大谷派高山教務所発行の『ひだご坊』2016年4月号に書いたものです。文中の数字はその当時のものです。

※子育てサロン「いちごのへや」は今年で6年目を迎え、毎月一回、親と子どもたちがお寺に集まってきます。その中から子ども食堂や子ども会につながっていく人もおられます。



住職のおてら日記

■ 9月23日 秋のお彼岸法要

午前と午後に行われ、約百名の方々が参詣。この動きもだいぶ定着してきた。長島巖さん・竹谷タケ子さん・住職がお話を担当。今後もぜひご参詣を。

■ 9月29日 グリーフケア

19名が参加して行われた。それぞれの今を自分の言葉で語ることを大切にして。コーヒータムなどもあり、ゆったりした、あたたかな時間が流れた。

■ 10月13日 樹心の会 じゆしん

34名が参加。最近では参加者が多い。以下お話のポイント。浮葉さん：学院時代に味わった「つらかった」こと。でも、そのことがあったから「阿弥陀仏に後ろから抱きしめられた」と感じる事ができた。住職：「災難のがれるための念仏ではない。どんなことが来ても引き受ける力が念仏である」

■ 10月20日 こども会

21名の小学生が参加。この日は寺町探検。途中の商店でお菓子を

買って、大谷派・西蓮寺さんでおやつ。白山勝久副住職に子どもたちが質問タイム。

■ 10月24日 こども食堂

キーマカレーを毎月提供するこども食堂。お寺周辺の若い世代の人々の交流の場として、順調に進んでいます。79名が参加

■ 10月27日 おみがき

報恩講法要に向けて仏具のおみがきと清掃奉仕のつどいが行われた。大勢の方々のご協力があった。なごやかに作業した後は、みんなで一緒にお昼ごはん。準備段階から報恩講に参加できることがおみがきの醍醐味。ご協力ください。



存明寺の仏具が医療センターに

存明寺が今の鳥山の地に移る前、麻布時代から使用されていた本堂の仏具（正確には須弥壇・宮殿・前卓と言います）は、二〇一二年の存明寺御遠忌法要の時にその役目を終え、京都の仏具屋さんに保管されていたが、このたび昭島市に新設された「東日本成人矯正医療センター」に新品同様の姿となつて安置されました。（写真下）

去る三月、但馬弘宗務総長や東京教務所長など大勢の僧侶が出仕して入仏法要が盛大に行われしました。今まで長い間存明寺で人々を見つめ続けていた仏具たち、今後は施設関係者や収容者の方々とじっくりと照らし続けることでしょう。ここに謹んでご報告いたします。なお当日の法話は、仏具を寄贈した存明寺住職が務めることとなり、ご本尊をお迎えする意義や人生をていねいに生きていくための数々の法話を紹介させていただきました。



↑ 存明寺に伝承されていた仏具たち



↑ 大勢の僧侶による入仏法要。右端が住職です。

2018年 年内のお寺のひろば

- 11月17日(土) 13時半 樹心の会
お話：羽田節子さん・酒井義一住職
- 12月8日(土) 13時半 樹心の会
お話：高橋昭彦さん・酒井義一住職
- 12月15日(土) 14時 グリーフケアのつどい
内容：勤行・法話・語り合い・音楽鑑賞

2019年の元旦は：

- 1月1日(火・元旦) 10時 修正会
年のはじめはお寺でおまいり
内容：正信偈の唱和・年頭法話・年頭感話
乾杯・書き初め・おしるこ
- ※ご家族おそろいでお参りください。
- ※来年のカレンダーをプレゼントします。



2019年(平成31年) お寺のひろば

- 1月1日(火) 10時 修正会
 - 3月9日(土) 14時 樹心の会
 - 3月21日(木) 11時と13時 春のお彼岸法要
 - 3月30日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 - 4月13日(土) 14時 樹心の会
 - 4月27日(土) 10時 おみがきのつどい
 - 5月3日(金) 12時 永代経法要
 - 5月18日(土) 14時 樹心の会
 - 6月8日(土) 14時 樹心の会
 - 6月22日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 - 7月6日(土) 11時 新盆法要
 - 7月13日(土) 11時と13時 お盆法要
 - 8月31日(土) 午後 青年のつどい
 - 9月7日(土) 14時 樹心の会
 - 9月23日(月) 11時と13時 秋のお彼岸法要
 - 9月28日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 - 10月12日(土) 14時 樹心の会
 - 10月26日(土) 10時 おみがきのつどい
 - 11月2日(土) 14時 報恩講のゆうべ
 - 11月3日(日) 12時 報恩講法要
 - 11月9日(土) 14時 樹心の会
 - 12月14日(土) 14時 樹心の会
 - 12月21日(土) 14時 グリーフケアのつどい
- ◎ぞんみようじこども会 月一回
◎ぞんみようじこども食堂 月一回
◎子育てサロンいちごのへや 月一回

【あしがき】

▼真宗寺院の一年は、報恩講にはじまり報恩講におわると言われています。それだけ親鸞聖人の御命日法要の報恩講を大切にお勤めしてきたということでしょう。

▼毎年のことですが、時間をかけて準備をします。講師のご依頼・ご門徒への案内・仏具のおみがき・仏華立て・料理の手配など…。報恩講は一日にしてならず、なのです。

▼でも、最後の準備が何よりも大切だ、と先輩から教わりました。それは、主催者である私が、ひとりの参詣者に立ち返り、我がこととして報恩講に出会うという姿勢を持つことだ、ということでした。

▼今年も一人ひとりのための報恩講が、おごそかに、にぎやかに行われます。(住職)



東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一(釋諦信)

〒157-0061 TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp